

2017年3月9日

## 洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2016年(平成28年度)1月～12月

(出荷単位：t・%：前年同期比)

2016年度(1～12月)日本クリーニング用洗剤同業会(以下当同業会という。)に加盟する13社の出荷実績は38,397トン・前年比で936トン増の102.5%となり2年連続の出荷増となりました。当同業会としては明るい状況ではありますが、ホームクリーニング分野は市場縮小傾向が継続しており、洗剤等の項目別出荷実績から課題も存在しております。

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ(リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体)③おしぼり業者④施設ランドリー(コインランドリー含む)であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。

### (全体コメント)

当同業会の顧客をマーケットセグメントから出荷概況を1.ホームクリーニング2.テキスタイルリネン3.おしぼり・施設ランドリーに分類し報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	88	87.1%	79	92.9%	167	89.8%	85	96.6%	77	97.5%	162	97.0%
ドライクリーニング用洗剤(フッ素系)	28	103.7%	23	143.8%	51	118.6%	28	100.0%	23	100.0%	51	100.0%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	571	98.8%	489	104.9%	1,060	101.5%	557	97.5%	481	98.4%	1,038	97.9%
ドライ合計	687	97.3%	591	104.2%	1,278	100.4%	670	97.5%	581	98.3%	1,251	97.9%
ランドリー用石鹼	184	101.1%	175	93.1%	359	97.0%	158	85.9%	151	86.3%	309	86.1%
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,734	102.9%	9,454	103.3%	18,189	103.1%	8,859	101.4%	9,714	102.8%	18,573	102.1%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,187	109.0%	4,491	108.3%	8,679	108.7%	4,161	99.4%	4,883	108.7%	9,044	104.2%
ランドリー用合成洗剤合計	12,921	104.8%	13,945	104.9%	26,867	104.9%	13,020	100.8%	14,597	104.7%	27,617	102.8%
ランドリー用ソフター合計	2,430	104.0%	2,553	100.5%	4,984	102.2%	2,534	104.3%	2,914	114.1%	5,448	109.3%
(うち濃縮タイプ)	382	97.7%	417	104.0%	800	101.0%	414	108.4%	450	107.9%	864	108.0%
ランドリー用粉末漂白剤	733	104.0%	816	102.6%	1,550	103.3%	723	98.6%	775	95.0%	1,498	96.6%
再販用合成洗剤合計	559	89.7%	784	93.0%	1,344	91.7%	535	95.7%	719	91.7%	1,254	93.3%
(うちコンパクト)	240	83.0%	370	85.8%	610	84.7%	222	92.5%	358	96.8%	580	95.1%
合成糊剤	506	101.4%	576	105.5%	1,083	103.6%	492	97.2%	528	91.7%	1,020	94.2%
年別総合計	18,020	103.7%	19,440	103.5%	37,461	103.6%	18,132	100.6%	20,265	104.2%	38,397	102.5%

### 1. ホームクリーニング市場

ホームクリーニングは、2016年度1～12月度の総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・(二人以上の世帯)のクリーニング代支出額は、6,615円と前年比14円増の100.2%となりました。

1～5月は前年割れが継続し深刻な状況ではありましたが、6月以降は8月を除き前年を上回り、当同業会の出荷増に影響を与えたと推察いたします。

項目別からドライ用洗剤合計で2015年は前年比100.4%と前年確保しましたが、2016年は97.9%で減少傾向に歯止めが掛かっていない状況です。一方、ランドリー用合成洗剤(粉末)の出荷増はカッターシャツ(ワイシャツ)の需要が安定的で出荷増に繋がったと推察致します。

繊維製品を取り巻く環境は大きく変化し、経済産業省は商業洗濯に係る衣類の『新しい取扱い表示記号』の制定により、消費者庁は日本工業規格(JIS L 0001)と国際規格(ISO 3758)の表示記号の整合性に対して、国際表示(ISO 3758)の表示記号と同じ記号を用いて改正し、2016年12月1日から施行され、今後、アパレルメーカー等の動向によってはウエットクリーニング(Wマーク)の需要拡大とドライの需要縮小の可能性があるかと推察致します。特にクリーニング代支出額に大きく影響を与えるウエットクリーニング用洗剤とドライ用洗剤の出荷実態を当同業会としても把握する必要があると考えております。

更に、当同業会の販売先であるホームクリーニングを主とする卸売業者の会社清算・廃業への傾向は継続し当同業会のパートナー減少は深刻です。

## 2. テキスタイルリネンサプライ市場

### －1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、都市圏を中心とした宿泊特化型ホテルの施設数が増加傾向にあり、市場規模としては増加傾向にあると推察します。また、海外訪日来客数および国内旅行者数の増加により、都市圏を中心にホテル稼働率が安定的な傾向でありました。

日本政府観光局（JNTO）の調査報告によると2016年海外訪日来客総数は2,400万人を越え、国別では中国・韓国・台湾という近隣国の訪日来客数の増加継続がホテル稼働率増加に大きく影響を与えたと推察いたします。この傾向は2020年東京開催オリンピック・パラリンピックに向かい増加傾向が継続すると推察いたします。当同業会としては、ホテル宿泊者に対し、洗浄技術を生かしたリネンの『白さ』と『衛生』が課題と捕らえ、顧客課題の解決に参画し『リネン品の日本品質』が世界のトップレベルであることを示していくことに取り組んでまいります。

### －2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

病院リネン関連（病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」）市場に大きく関連する病床数は、厚生労働省医療施設調査2015年10月1日現在の報告によると病院病床数は156.6万と前年から2.3千病床数が微減傾向となっております。病床数が微減に留まり寝具類の需要は比較的安定的と推察致します。ここ数年の傾向として1日単位で入院患者にレンタルする入院セットの需要が伸びております。この分野は、高齢化社会の中で療養病床数不足が課題ではありますが、大きな増加傾向までは期待は出来ない状況で、在宅医療の流れは継続すると推察致します。寝具類は医療事業機関等から衛生に対する要望が高まっており、当同業会としては、今後の対応として『洗浄剤』と『衛生関連剤』の提案・提供による課題解決が必要と考えております。

ダイアパーは貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しております。入院患者に対し貸しオムツと使い捨て紙オムツの提供を展開するもスーパー・ドラッグストアの安価品購入も減少傾向の大きな要因と推察致します。

### －3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野で景気停滞による需要の減少傾向が継続し、リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品は他流通からの購入へ移行、更に他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい分野環境が長期傾向にあると推察致します。特に、この分野は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していくことも近年重要になりつつあります。当同業会としては、リース品の耐久性も含め高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を実現したいと考えています。

## 3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

おしぼり分野は外食産業のコスト重視の傾向が根強く、安価な紙おしぼりへの移行が進み微減傾向が継続していると推察致します。数年前から適正価格への取組も展開し品質向上と衛生管理も充実させ、日本のおもてなし文化をいち早く訴えリースおしぼりの良さが認識され拡大に転じる事を期待致します。

施設ランドリーはコインランドリーがここ数年は大幅な増加傾向で、最近の特徴とし1時間程度の洗濯時間を有効に活用できるカフェ・書店などとの複合施設が増加傾向で需要拡大が期待できると推察致します。一方、公衆衛生を前提とするクリーニング業法との適合性を見極める時期でもあります。施設管理には機械類のメンテナンスと洗剤類の適正投入量が重要と考えております。当同業会としても期待分野であり優良商品の提供に努め、更なる商品開発で家庭洗濯との差別性を実現したいと考えております。

## 4. 2016年度総計・タイプ別出荷状況報告

### －1) 全項目別総計出荷報告

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
年別総合計	18,020	103.7%	19,440	103.5%	37,461	103.6%	18,132	100.6%	20,265	104.2%	38,397	102.5%

2016年度（1-12月）当同業会に加盟する13社の総出荷実績は38,397トンとなり前年比で937トン増の102.5%でありました。上期は前年比100.6%で下期は104.2%となり、下期の出荷増が特徴の年でした。

### －2) ドライ用洗剤

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	88	87.1%	79	92.9%	167	89.8%	85	96.6%	77	97.5%	162	97.0%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	28	103.7%	23	143.8%	51	118.6%	28	100.0%	23	100.0%	51	100.0%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	571	98.8%	489	104.9%	1,060	101.5%	557	97.5%	481	98.4%	1,038	97.9%
ドライ合計	687	97.3%	591	104.2%	1,278	100.4%	670	97.5%	581	98.3%	1,251	97.9%

ドライクリーニング用洗剤は前年比で27トン減の97.9%となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績でありました。長期的な縮小傾向が継続しております。

パーク系は、前年比で5トン減の97.0%、減少傾向に歯止めが掛かからず、パーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

フッソ系は、前年比を確保し100%となり、ここ数年のトレンドは横ばい傾向であり、今後の出荷状況確認が必要と考えております。

石油系は、前年比で22トン減の97.9%となり、石油系の減少傾向は今後も継続すると推察しており、『新しい取扱い表示記号』の施行による、洗濯方法を表示記号に応じたウェットクリーニングへ移行する広がりの可能性もあると推察します。

### ー3) ランドリー石鹼

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー石鹼	184	101.1%	175	93.1%	359	97.0%	158	85.9%	151	86.3%	309	86.1%

ランドリー石鹼は前年比で50トン減の86.1%となり、減少傾向が継続しランドリー用合成洗剤への移行が長期的に進んだ結果と推察致します。当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定をお願いするケースもあると考えております。

### ー4) ランドリー用合成洗剤

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	8,734	102.9%	9,454	103.3%	18,189	103.1%	8,859	101.4%	9,714	102.8%	18,573	102.1%
ランドリー用合成洗剤(液体)	4,187	109.0%	4,491	108.3%	8,679	108.7%	4,161	99.4%	4,883	108.7%	9,044	104.2%
ランドリー用合成洗剤 計	12,921	104.8%	13,945	104.9%	26,867	104.9%	13,020	100.8%	14,597	104.7%	27,617	102.8%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、前年比384トン増の102.1%と安定した分野であると推察致します。テキスタイルリネンサプライで、ホテルの稼働率が安定傾向となり出荷量増に寄与したと推察いたします。また、病院寝具・ダスコ市場とホームクリーニング市場は微減に留まり、全体として出荷量増と推察します。

ランドリー用合成洗剤(液体)は、前年比365トン増の104.2%と安定した分野と推察致します。

自動投入装置対応として期待される商品であり、粉末洗剤同様に出荷量が増加しました。液体洗剤を使用するコインランドリー施設への出荷増とホテル・病院寝具分野で液体洗剤類の自動投入機対応も増加要因と推察しております。今後もトータルコストメリットや生産安定化に寄与できると判断される要素が増えていくと、テキスタイルリネンサプライ市場での需要も増加するものと推察します。

ランドリー用合成洗剤は2010年からの傾向で見ましても、テキスタイルリネンサプライ市場ホテル分野の安定的な維持により安定に推移していると推察致します。ホームクリーニング市場においても、ランドリー用合成洗剤の落ち込みはドライクリーニング用洗剤程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。また、コインランドリーブームが継続すると更に市場拡大すると期待しております。

### ー5) ランドリー用ソフトナー・漂白剤・合成糊剤

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用ソフトナー 計	2,430	104.0%	2,553	100.5%	4,984	102.2%	2,534	104.3%	2,914	114.1%	5,448	109.3%
(うち濃縮タイプ)	382	97.7%	417	104.0%	800	101.0%	414	108.4%	450	107.9%	864	108.0%
ランドリー用粉末漂白剤	733	104.0%	816	102.6%	1,550	103.3%	723	98.6%	775	95.0%	1,498	96.6%
合成糊剤	506	101.4%	576	105.5%	1,083	103.6%	492	97.2%	528	91.7%	1,020	94.2%

ランドリー用ソフトナーは前年比464トン増の109.3%と市場拡大傾向となりました。メインの使用分野であるテキスタイルリネンサプライ市場が堅調に推移し、更にコインランドリー市場の需要拡大が下期に起きたと推察致します。

濃縮タイプについても安定的に推移し、前年比64トン増の108.0%と濃縮タイプの利便性は受け入れられつつあると考えており、今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

ここ数年は増加傾向で、濃縮タイプへの移行により実質的には拡大しているものと推定しております。当同業会の技術革新により、濃縮タイプ柔軟剤は、繊維に『柔軟性』・『帯電防止性』付与するだけでなく、『抗菌性』、『平滑性』、『すべり性』を付与する機能剤として、今後も拡大していくものと期待しております。

ランドリー用粉末漂白剤は前年比 52 トン減の 96.6%となりました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤のユーザーであるホームクリーニング市場の縮小傾向と推察しております。

合成糊剤は前年比 63 トン減の 96.6%となりました。シーツやYシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

#### － 6) 再販用合成洗剤

項目 / 年度・前年比	2015年出荷実績						2016年出荷実績					
	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
再販用合成洗剤 計	559	89.7%	784	93.0%	1,344	91.7%	535	95.7%	719	91.7%	1,254	93.3%
(うちコンパクト)	240	83.0%	370	85.8%	610	84.7%	222	92.5%	358	96.8%	580	95.1%

再販用合成洗剤は、前年比 90 トン減の 93.3%となりました。長期の減少傾向に変わりはないと推察致します。1994年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となり濃縮タイプも前年比 30 トン減の 95.1%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。

#### 5. まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 102.5%という結果でありました。昨年は円安の影響により、ホテルリネンは海外からの集客により好調であったと推察致します。一方、消費税増税後の影響が心配されましたがホームクリーニング分野は前年割れ回避出来ました。テキスタイルリネンサプライ分野での需要が大きいメインのランドリー洗剤とソフターが出荷増となり、全体として出荷増という結果となりました。

特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向は深刻に捕らえております。当同業会 13 社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献致します。

以 上